

## 令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	音楽	種目	音楽劇
	応募区分	特別エリア区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要

ふりがな	さかいしていおぺら いっぱんしゃだんほうじん		
制作団体名	堺シティオペラ 一般社団法人		
代表者職・氏名	代表理事(会長) 葛村和正		団体ウェブサイトURL
			https://sakai-city-opera.jp/
制作団体所在地	〒	591-8037	最寄駅(バス停)
	JR百舌鳥駅		
大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町4-256			
制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
ふりがな			
公演団体名			
代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
公演団体所在地	〒		最寄駅(バス停)
制作団体 設立年月	1978年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事(会長) 葛村和正 代表理事(理事長) 坂口万里 副理事長 榊貴志 理事 9名		代表理事2、副理事長1、理事9、監事2、評議員24、一般会員318
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	農澤明大
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	小林敦子
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
	<a href="mailto:office@sakai-city-opera.jp">office@sakai-city-opera.jp</a>		0722541151

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>1978年 市民オペラとして活動を開始</p> <p>1986年 堺市民オペラ協会発足。以後毎年オペラ定期公演を上演</p> <p>1989年 堺シテリオペラと改称</p> <p>1995年 ドイツのケム ニッツ歌劇場と『魔笛』を共同制作し、堺とケムニッツの2カ所で公演</p> <p>2003年 第18回定期公演「三部作」音楽クリティッククラブ賞・佐川吉男音楽賞受賞</p> <p>2004年 第19回定期公演「ファルスタッフ」三菱信託音楽賞奨励賞受賞</p> <p>2006年 イタリア プッチーニフェスティバル(共同公演) プッチーニ作曲『蝶々夫人』日本の音楽団体として初めての参加</p> <p>2009年 法人格取得 一般社団法人に移行</p> <p>2012年 第27回定期公演「ちゃんちき」三菱信託音楽賞奨励賞受賞</p> <p>2013年 オーストリア ウィーン公演(共同公演)「日本のオペラ&amp;狂言コンサート」林 光 作曲『おこんじょうり』</p> <p>2016年 第29回定期公演「黄金の国」音楽クリティッククラブ賞・佐川吉男音楽賞受賞</p> <p>2019年 オーストリア 日本・ウィーン国交150周年記念コンサート(ウィーン公演)</p> <p>2017年 第30回定期公演「カルメン」大阪文化祭賞奨励賞受賞</p> <p>2021年 第34回定期公演「アイダ」大阪文化祭賞受賞</p> <p>2022年 il Teatro L'alba L'amore「トウランドット」大阪文化祭賞受賞</p>
	学校等における公演実績	<p>文化庁巡回公演事業</p> <p>2020年度(巡回公演 6公演:ヘンゼルとグレーテル)、2021年度(巡回公演 9公演:ルサルカ)</p> <p>2022年度(巡回公演13公演:おこんじょうり) 2023年度(巡回公演7公演:おこんじょうり)</p> <p>2024年度(巡回公演2演目、26公演:おこんじょうり・ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>2025年度(巡回公演6公演:電話&amp;恋するくじら)</p> <p>堺市文化振興財団 さかいアートスクール事業</p> <p>2015年度(1公演:カルメン)、2016年度(1公演:ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>2017年度(1公演:愛の妙薬)、2018年度(3公演:愛の妙薬・ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>堺市舞台芸術体験による被災地支援事業(東北)</p> <p>2016年度(3公演:愛の妙薬)、2017年度(3公演:愛の妙薬)</p> <p>堺市文化振興財団 さかいミーツアート事業</p> <p>2019年度(3公演:演目ブリマドンナはどっちだ?)、2020年度(3公演:ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>2021年度(2公演:ブリマドンナはどっちだ?)</p> <p>2022年度(2公演+ワークショップ5回:おこんじょうり)、2023年度(1公演+ワークショップ1回:愛の妙薬)</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>2023年度(青森県立浪岡養護学校)巡回公演2公演:おこんじょうり</p> <p>2025年度(香川県立善通寺支援学校、香川県立香川中部支援学校)巡回公演:電話&amp;恋するくじら</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://youtu.be/R8Rp2BjZd_w">https://youtu.be/R8Rp2BjZd_w</a> <a href="https://youtu.be/4XZgDxMgum0">https://youtu.be/4XZgDxMgum0</a>	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

なし

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	○
	企画名	『オペラと歌物語の世界で見つける大切なもの』 ～堺シティオペラオリジナルVer.～			
	企画のねらい	オペラは複数分野の芸術が混在して創造される総合芸術であり、一度に様々な芸術に触れる事が出来る芸術媒介である。本演目はオペラ(『電話』)のみならず歌物語(『恋するくじら』)を取り上げることで、オペラへの入口として児童・生徒の興味や関心を誘導するための企画である。現在失われがちになっている目に見えない大切なものを、総合芸術の持つ力で見つけ出し、日本の未来を担っていく児童・生徒たちの情操を育みたいと願っている。歌手、器楽奏者、スタッフすべて本物で作り上げるステージを児童・生徒にとって身近なものとして自身の感覚で体験し捉えさせたい。『恋するくじら』は、イルカとクジラの純粋な友情の尊さをシンプルに描いており、児童・生徒の情操に触れ友情の大切さを認識させるにふさわしい。一方、『電話』では、携帯電話の普及により日常生活の中で忘れ去られそうな人間の心の繋がりと真の思いやり・愛情など大切なものを再認識してもらうことで、オペラを知り、オペラを好む次世代の育成を目標とする。			
	演目概要・演目選択理由	オペラは音楽、文学(台本)、演劇(演出)、美術(舞台美術や衣装)、舞踏など複数の分野の芸術が一度に味わえる総合芸術だが、特別エリアの場合、大掛かりな演目では巡回しにくいことを踏まえて、この企画では文学作品／音楽の力に光を当てた。イルカとクジラの友情物語や、若者には親近感がある長電話が招くいざごさストーリーを日常的な舞台セットで、ストーリーを追いかけることにより、児童・生徒に親近感も湧き、本公演のテーマである大切なものを再認識してもらいやすい作品であり、オペラを愛する次世代の育成にふさわしく、児童・生徒の感性に響く演目であると考え。各演目が2人ずつのキャストであることで、登場人物の把握もしやすく、初めてのオペラ体験には適しているとも考えている。			
	児童・生徒の参加または体験の形態	児童・生徒の体験への参加においては難しい演技や歌唱を求められる事はなく、ワークショップを通して歌唱時の体の使い方や行の吸い方や発語の仕方など、歌い方を示し、その後成果を発表してもらう。また『電話』では着信ベルを実際にハンドベルで音を鳴らしてみたりと、オペラの音作りにも参加してもらう。			
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	～665名程度	
			鑑賞人数目安	～665名程度	
	本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	オペラ『電話』全1幕(日本語上演) 脚本・作曲:ジャン・カルロ・メノッティ 演出:坂口 栞里 『恋するくじら』 作曲:平田あゆみ 原作:工藤直子 『電話』は、1947年にアメリカの作曲家メノッティが作曲した全1幕のオペラであり、ソプラノのルーシーとバリトンのベンが出演し、30分程度の時間で作られている。内容は、ベンがルーシーにプロポーズにやって来るが、ルーシーは電話で忙しく日々の楽しみやグチを友人に告げている。結局自分の意思を伝えられなかったベンはやはり電話で本心を伝えるという、日常にも起こりうる出来事をオペラにしている。会話の部分にご当地の名所や産物なども入れて親しみやすく、興味あるものとしてアプローチする。日本語による歌物語『恋するくじら』は広い海の中で暮らすイルカとクジラの堅い友情を描いている。お互いがお互いのことを自分ごとのように心配したり喜び合う姿や、何気のない会話が作曲者平田あゆみの流れるような音楽で表現されている。			
		公演時間	40	分	
出演者	オペラ『電話』 ベン:西尾 岳史(予定)・伊藤 友祐(予定) ルーシー:高嶋 優羽(予定)・村岡 瞳(予定) ピアノ:吉田 衣里(予定)・森脇 涼(予定)  『恋するくじら』 いるか:松原 友(予定)・中島 康博(予定) くじら:福嶋 勲(予定)・榎 貴志(予定) ピアノ:吉田 衣里(予定)・森脇 涼(予定) 出演者は上記を予定しているものの、公演日の決定していない現時点で確定することは困難である。				
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	総合演出:坂口 栞里 当法人理事長・エグゼクティブプロデューサー。プロデュースしたオペラ『カルメン』『アイーダ』『トゥーランドット』が大阪文化祭賞受賞。邦人作品も積極的に取り上げ、『ちゃんちき』『黄金の国』等で三菱UFJ信託音楽賞奨励賞をはじめ複数賞受賞。海外での記念公演や初演公演も重ねている。 キャスト:榎 貴志(予定) 新国立劇場オペラ研修所第5期生修了。第37回イタリア声楽コンクール・ミラノ大賞。ボローニャ音楽院留学。第27回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位および中田喜直賞受賞。当法人副理事長。海外での公演も行っている。 キャスト:高嶋 優羽(予定) ローム・ミュージック・ファンデーション在外研究生としてNYにて研鑽。兵庫県立芸術文化センター2012年度ワンコインコンサートNo.1アーティストに選出され、アンコール・リサイタルを開催。メディアへの出演も重ねている。				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者:	5	名	運搬	積載量: 2 t
	スタッフ:	9	名		車 長: 5.3 m
	合 計:	14	名		台 数: 1 台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		有	前日仕込所要時間		2	時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～11時		13:30～14:30	なし	15時～16時	16時
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数 目安  ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月
	15日		0日		0日		7日
	10月		11月		12月		1月
	20日		20日		20日		20日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		102日
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)   							

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。



別添

なし

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

## ワークショップのねらい

通常の学校音楽鑑賞教室などでは観客として公演を観て鑑賞することになり、受動的なコンサート体験になってしまいがちです。しかし、ワークショップでの実践的な経験を通して実際の公演に関わってもらい、この公演に自ら積極的に携わっているという感覚を実感し、その体験が子どもたちにとって能動的なものになることを狙います。プロの歌手や音楽スタッフと共に制作プロセスを体験し、交流することにより、このような職種がある事を認識してもらい将来のキャリアに対する視野を広げることも目的とします。ワークショップ体験を通して異文化や自分と異なる考えやアイデンティティを受け入れられる心を育てる機会となることを望んでいます。

## 児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

～660名

## ワークショップの内容

## ワークショップ実施形態及び内容

①挨拶、団体紹介  
司会を兼ねた歌い手が登場し、スライドを用いて、挨拶と団体の紹介をします。

②オペラ制作に関するレクチャー  
オペラがなぜ「総合芸術」と呼ばれているのかスライドを使って説明します。  
オペラの公演は、歌手やオーケストラなどの演奏者だけではなく、音楽を司る指揮者や文学・台本と大きく関わる演出家、舞台デザイナーとスタッフ、照明デザイナーとスタッフ、衣装デザイナーとスタッフ、ヘアメイク、ホールスタッフなど多くのスタッフに関わることによって華々しい舞台が作られることを伝え、人前に出ることなく、オペラの制作現場には人前に出ることなく、表には見えない様々な分野のスタッフが働き、その影の力を集結して公演舞台が成されていることを知ってもらいます。

③プロのオペラ歌手による演奏(2曲程度)  
実際にオペラ歌手による歌唱を聴いてもらいます。歌唱を聴くだけでなく体験してもらいます。  
実際のオペラの劇場で使われ、素晴らしい演奏をした奏者を称える”Bravo!”という掛け声のレクチャーを次のステップとして数年前にサッカー選手が使った事で知名度の上昇したイタリア語から導入することで言葉の苦手意識を減らしていきます。

○重めの声のソプラノ歌手が指導に行く場合○  
日本を舞台にしたオペラ「蝶々夫人」より”ある晴れた日に”を演奏します。打掛(日本の伝統衣装でオペラの舞台でも実際に使われる着物)を着て演奏しますが、希望した生徒1名を指名しその打掛を実際に着て動いてもらいます。オペラ歌手は平気な顔で歌い演じていますが実際はとても重い衣装を着ながら演唱していることを体感してもらうことで、そのプロフェッショナリズムを知覚してもらいます。

○コロラトゥーラソプラノ歌手が指導に行く場合○  
オペラ「ホフマン物語」より”オランピアの歌”を聴いてもらいます。  
オランピアとはこのオペラに登場するゼンマイ仕掛けの人形の役です。人間が人形になる演技をしながらかうのうのですが曲の途中でゼンマイが切れてしまい、巻き直すお芝居が入ります。その際に希望する生徒1名に”ラチェット”という楽器でユーモラスな人形の Aria をより愉快地にし、難しいお芝居や楽器の演奏がなくてもオペラの登場人物になれる事を体験してもらい、オペラをより身近に感じてもらいます。

また、声種によって音色の違いを伝えるため男声歌手の演奏も紹介します。華やかなドレスを着て演奏する女声歌手に比べ、男声歌手は衣装による制約が少ない為、現場の状況にあわせて、生徒の列の中に入って演奏してもらいます。演奏する曲はテノール(声の高い男声歌手)ならベートーヴェン作曲交響曲第九番をアレンジして作られた曲”希望の歌～交響曲第九番～”。バリトン(声の低い男声歌手)なら世界で最も上演されていると言われているオペラ「カルメン」より”闘牛士の歌”を演奏してもらいます。この2曲はどこかでメロディーを聴いた事がある生徒が多く、クラシックの曲は意外と身近なところにひそんでいる事を紹介し親近感を持ってもらう為の選曲です。

実際にマイクを通さずに体育館いっぱいに響き渡るオペラ歌手の声を真横で感じることで人間の肉体の持つ可能性やオペラ歌手がトレーニングを積んで身につけた技術を肌で感じてもらいます。

④器楽による演奏  
オペラや殆ど声楽曲には楽器による伴奏が付きまします。オペラの場合、オーケストラ伴奏で作られた作品が多い為、オーケストラの中で最も人数の多いヴァイオリンの演奏を聴いてもらいます。歌ではできないような技巧的な演奏や普段なかなか間近で聴くことの珍しい多彩な音色を耳にすることにより感性を育みます。

	<p>⑤歌唱指導</p> <p>オペラ「電話」の冒頭でルーシーが電話に出るシーンで歌う部分の歌唱指導します。また、その際に電話のベルの音をハンドベルで行い、希望者はハンドベルで電話の音を模す体験を行うことができます。本公演においても、当該部分を客席から歌うことで盛り上げてもらいます。</p> <p>歌唱指導における注意点として女声歌手が指導すると高い声を真似ようとする生徒が多く、こちらの意図とは違う方向に指導の目的がずれやすく、また小学生高学年や中学生は変声期を迎えた男子生徒も多い為、声を出す事に抵抗なく指導する為、当団体では男声歌手による歌唱指導をします。最後のまとめとして指揮者を見て歌うことも体験してもらい、より一層、音楽を作る楽しさを体験してもらいます。</p> <p>⑥質問コーナー(60分の場合)</p> <p>実際にオペラ歌手や楽器奏者の演奏を聴き舞台の進行を体験した後に、実際に感じた事を質問する事で理解が深まり、より興味を持って本公演を迎える事ができます。加えて、舞台芸術の文化は、人間の持っている力でしか魅力を伝えられないクリエイティブな職業への興味関心を芽生えさせ進路の選択肢を増やす良い機会になります。</p> <p>最後にワークショップに参加した生徒全員と指導者全員とで合唱曲の”Believe”を演奏し、ワークショップを終わります。</p>
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆演奏者はスタッフを含め4～5人です。</li> <li>◆ピアノを使用します。</li> <li>◆実際に本公演を行う体育館での実施を希望します。</li> <li>◆ワークショップ開始前に先生にご紹介いただき、最後には体育館退出の指示を出していただきます。</li> <li>◆ワークショップの日程を設けられない場合に限り、本公演の前の時間に実施可能です。</li> </ul>

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。  
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。  
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。  
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。  
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。  
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。  
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。  
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。							
会場の設置階の制限		条件なし		主幹引き込み電源容量			60 A以上	
舞台設置面積		間口	指定なし	m	奥行	指定なし	m	
		高さ	指定なし	m				
舞台設置場所		フロア対応	条件が合えば可		学校のステージでの対応		可	
搬入間口の広さ		幅	2 m		高さ	2 m		
遮光の要否		7割程度必要		緞帳の要否			有無のみ確認したい	
ピアノの使用について		必ず使用する		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			あり	
				ピアノを使用しない場合の移動の要否			要	
搬入車両(トラック等)の横づけ		応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			10 m以内	
搬入車両の種類		小型トラック(軽トラック)		台数	1 台			
搬入車両の大きさ		車幅	1.7 m		車長	5.3 m		
備考								

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

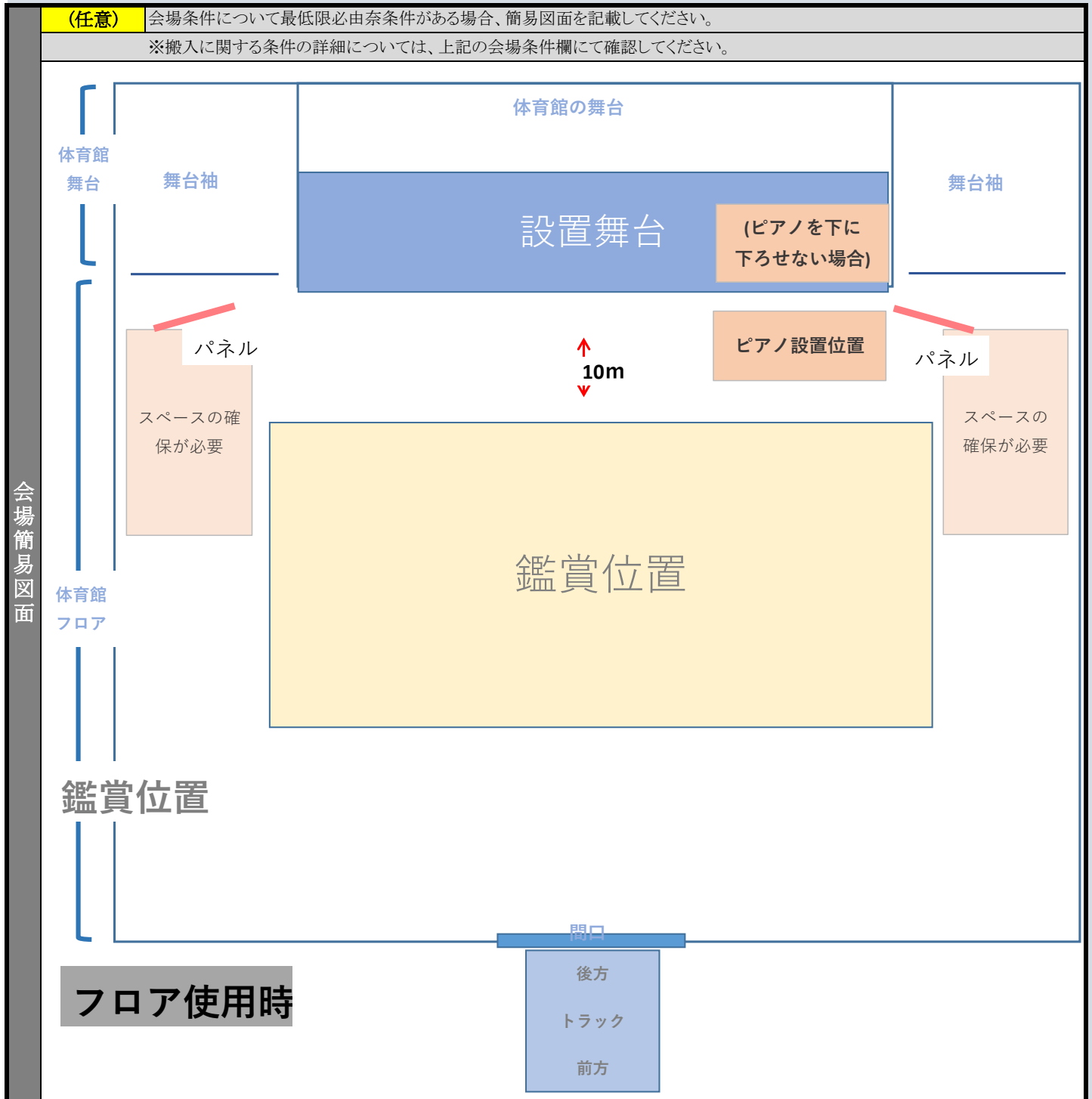
学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。					
会場図面の提出要否	要					
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	舞台・客席・袖(上下)の写真					

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
		個別ヒアリング事項
	1	体育館近くに、飲食可能な控室(12名程度)・着付け用の控室の2部屋をご用意いただけますでしょうか。
	2	ピアノの調律から半年以上経過している場合、本公演までに調律していただくことは可能でしょうか。
3	校時表(時間割表)がございましたら、写真か文字情報でお伝えください。	





別添

なし

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

日常生活の中でオペラ等の生の芸術に触れる機会の少ない中、学校でオペラを鑑賞できる機会は、とても貴重な体験となります。しかし、鑑賞するだけの公演ではオペラの本質を十分に伝えきる事はできません。この巡回公演ではワークショップや公演を通して、児童・生徒の皆さんが積極的に芸術体験に関わることができ、総合芸術としてだけでなく、キャリア教育を基本とする人間力育成としてのオペラカンパニーの姿を発信していきたいと考えております。オペラは高尚な芸術として先入観を持たれ、敷居が高いと思われがちですが、芸術教育は児童・生徒の人間力を育成するために必要不可欠であり、そして、そこで培う豊かな感性こそ、未来の世界を切り開く上で望まれている事であると啓発していく所存です。

また、コロナ禍により、ワークスタイルやライフスタイルなどがインターネットの活用などによってデジタル化されてきています。しかし、人間の情操教育は人々が集まり、同じものを観て、違うものを感じて、その差異を共有してこそ、お互いの理解が生まれると信じています。この公演を通して、同じ場所で同じものを観て、その経験を語り合い、その結果このデジタル化されていく世の中では学べない、人間としての大切な感情を育てて行きたいと考えております。数ある公演の中でも、子どもたちに初めての本物のオペラとの出会いを届ける本事業こそ、これからの日本における芸術文化の未来にとって、最も重要であると考えています。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

沢山の公演を経験してきている関西の中堅歌手、堺シティオペラの子どもたちのためのオペラプログラムを担当している若手歌手、海外で音楽活動をしている音楽スタッフをバランス良く配置する事により、全ての分野に於いてクオリティーの高い結果を提示できるようにしています。本番では舞台スタッフを用意する事により、限られた条件を最大に活かしての演奏効果が臨める舞台を作ることができ、子どもたちが安心して公演を楽しめるよう配慮しています。舞台については、A区分と比較すると少し簡略化はされるものの、ハリボテの舞台装置ではなく、プロの舞台・照明チームと力を合わせて、各学校の体育館がいつもの体育館とは異なる空間になるように心がけることにより、子どもたちの集中力もより高めるようにしています。

本事業への応募理由等

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

## 【学校との連絡調整について】

まず初めに、日程調整と挨拶を兼ねて一度電話にて連絡をしています。その後、過去に実施した経験を活かし、学校側に不明点が残らないよう、細かな説明を施したメールを送るようにしています。メールへの返信がない際には、改めて電話をするなどの対応をしています。ただし、メールでの連絡に全ての情報を盛り込んで逆伝わりにならないこともあるため、ワークショップの際に細かい情報を確認するようにしています。学校への負担が大きくなりすぎないように、簡潔な連絡を心がけています。

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

学校及び学年によって、児童・生徒の性質は異なります。盛り上がりやすい学校、シャイな子どもが多い学校、など様々です。ワークショップの際に児童・生徒の特性を把握し、事前に本公演のキャストに伝えることで、各学校における聴衆への呼びかけや演出に変化を持たせる工夫を行なっています。

また、小学校公演、中学校公演、支援学校での公演と、年齢層によっても演出に変化を持たせ、より聴衆への演奏効果・教育効果が高くなるように努めています。

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

ワークショップ及び本公演での実践的且つ主体的な鑑賞経験を通して、その体験が子どもたちにとって能動的なものになることを狙います。プロの歌手や音楽スタッフと共に制作プロセスを体験し、コミュニケーションを取ることで、このような職種がある事を認識してもらい将来のキャリアに対する視野を広げることも目的とします。また、オペラという総合芸術について学んだ経験が、その後の音楽鑑賞における視野も確立し、生涯を通しての継続的な学びにも繋がります。

別添

なし

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人】

特別エリア区分で事業を実施するに当たっての工夫

## ①離島・へき地等における公演実績

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)においては、C区分での採択となり、大道具及び奏者の規模をコンパクトにした形での公演に成功しました。

また、それ以前にも雪の時期に青森での公演を行った際には、トラックが自走しての現地入りは不可能であるという判断をし、舞台道具全てをクロネコヤマトのチャーター便を用いて輸送した経験があります。遠方という意味では、大阪から青森や長崎へ赴いての公演も行っております。

また、特別支援学校におきまして、学校と病院・施設が同地にある場合、ストレッチャーでの鑑賞やライブ中継を行って病室にライブ配信を行うという公演も実施しました。

演出が同行しているため、各学校の体育館(及び舞台)の形状に合わせて歌い手やピアノの配置を臨機応変に変え、それに対応が可能な歌手と共に公演を実施しており、学校ごとの特性に合わせ、児童・生徒への演奏効果が視覚的にも音響的にも最大化されるように実施しています。

## ②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、当該地域、また特別エリア区分の企画に求められる要件を踏まえた上で、一般区分と同様の公演及びワークショップの質を保つための工夫

## 【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】

まずは移動手段として、中型のバスではなく、小回りの利く乗用車を用います。舞台道具の運搬車についても、2tトラックでの搬入が難しいとのことであればハイエースを用いることで、特殊な事情のある地域での公演も可能になっています。

また、聴衆との距離の近さを活かします。演者と聴衆との相互交流を生み、集中力を途切れさせ上演を目指し、公演演目の選択は、舞台装置が簡素にできる作品を吟味しての選曲です。

## 【質を保つための工夫】

例えば舞台設定として日常的な家具や衣装を使用できる作品を上演することで、地理的な条件で舞台芸術に接することが少ない児童・生徒の皆さんにも楽しくて豊かなオペラの芸術鑑賞を可能にしています。

公演自体のクオリティを保つための工夫として、小規模の舞台セット、少人数での演奏でありながらも、一人一人が関西や日本を代表するレベルの歌い手を起用します。

## ③特別エリア区分応募における、費用面の工夫

特別エリア区分での応募に値するよう、舞台装置や衣装など特別なものを準備せず、また公演の規模を縮小させずに上演が可能な作品を選曲しています。

また、出演者の少ないオペラ作品を選曲することで、人件費を節減しています。

奏者のみならずスタッフの人数も減らせるため、旅費としてかかる費用も節減に繋がり、なおかつ質の高い奏者を準備します。

ワークショップについては、より深く理解するために、児童や生徒への歌唱指導を行います。

ワークショップを経験していない学年がある場合や当日に希望される場合においても、本番前にレクチャーを行うため、ワークショップの旅費を削減することも可能です。

出演者の少ない作品ゆえに、ピアノと指揮を同時にできることが望ましいと考えます。ピアノの移動ができない場合は、電子ピアノを使用する場合があります。(その際には、ピアノを持ち込ませていただきます。)